

宿題や自由勉強を少しずつがんばります。みんな元気で楽しい家です。



6年 鈴木 真由美

修学旅行

今日は待ちに待った修学旅行です。鎌倉宮の見学が終わると、今度の見学場所はすごく楽しみにしていた大仏です。わくわくしながら中へ入っていきましました。少し歩いて木のかげから出ると、すごくすごく大きい大仏様がすわっていました。思わず、「わあすごい。」と、さげんでしまいました。みんなも、

「すごいなー」

「すごい大きいな。」

と、口々に言っていました。この大仏を初めて見た時の気持ちは一生わすれませ

んと。とっても良い思い出になりました。

次の日早雲山からロープウェイにのつたあと富士サファリパークへ行きました。

あしかショーはあしかがばくだんを運んだら、しゅりけんを受け取ったり、片手でさかだちしたりしました。動物たちのショーを見ると、いつも私は、教える人もたいへんだけど、教えてもらおう動物たちもたいへんだらうなと思います。

これで楽しみにしていた修学旅行は終わりです。でもこの二日間は私にとって一生忘れられない思い出になることでしょう。

我が家の家庭教育

シリーズ ③

家庭教育

下高原 美津子



「家庭教育」というと、何かとても難しく、ちよつと身構えて取りかからないといけないような感じを受けますが、「躰」といえば、日常生活の中で普通にできる、それほど困難なことではないと思います。人として生きて行く上で必要な礼儀や思いやりなどを教え、身につけることが家庭教育、つまり「躰」ではないでしょうか。

今、改めて、我が家における家庭教育を文字に書き表わすとすると、何なのだろうかと一瞬とまどってしまいます。「子どもは、親の姿を見て育つものだ」と昔の人はよく言いましたが、強いて言えれば私の意識の中にいつもこの言葉があったように思います。「教育」などという言葉すら存在しなかった遠い昔から、親は子どもに暮らしの中から、さまざま

俳句

新茶ほめ話つき足す女客

鈴木 つね

大木静波子

つゝ、じ咲いて石庭頼に華やぎぬ

椎名 静子

ウインドの新茶の値段見て通り

藤代 敏子

春の潮区切る緑や宮津湾

初夏の風遠くの声を運び来る

越川 雪枝

花びらの浮ぶ吸椀宵ざくら

岩田 慶雄

水足りて早苗に染まる田のみどり

伊藤 定男

連休の谷間せかるゝ田植かな

越川せつ子

老ふたり話し疲れを新茶かな

土屋 好

ことをおしえてきました。これは子どもに対する親の知恵だったのではないのでしょうか。「親の生きざまを見ることが教育です。」などと言うと、とても自信に満ちていて、断言しているように聞こえますが、とんでもありません。親だって人間です。欠点だらけです。子は親の鏡です。ひょんなところで鏡に写った自分の姿を見せられて、はつとすることもしばしばです。反省したり悔やんだりしながら、子どもに教えられることもありま

す。我が家では親の忙しく働く姿を知らず知らずのうちに感じとっているようです。もう一つ、子どもの要求を完全に満たしてしまわないこと。腹八分目ではないのですが、八割くらいのところでおさえおく必要があると思います。「ママ、また昔の話」と子どもに言われますが、私の子どもの頃の話をよくします。現在のように物に恵まれていませんでしたが、心は今の子どもより満たされていたように思います。「金さえあれば欲しいものは何でも目の前に出てくる」という状況は決して好ましいことではありません。苦労して手に入れる、だからその物の価値も高まり、大切にするのはないでしょうか。「今と昔は違うよ」と反発する息子にもいちりありますが、人として生きていくことの根本的なものは変わらないと思います。日常生活の中で子どもとの接点を見失なわないようにし、親と子の共同作業でよりよい家庭を築きあげていくことが、我が家の家庭教育になるのではないかと思います。